

題材名 「幼児との関わり方の工夫」 (第1学年 A 家族・家庭生活)

■本事例のポイント

1. 思考ツール「KWL法」※を用いることで、課題解決に向けて自分のもっている知識や知りたいことを可視化できるようにした。
 2. 課題を解決するために、調べ学習を通して関わり方を考えることで、自ら学習を調整し、今後の触れ合い体験に向けてイメージをもって取り組めるようにした。 ※KWL法…「知っていること」「知りたいこと」「学んだこと」の頭文字を取った、学習を促進するための思考ツール

■ 題材の目標

- ・幼児の発達と生活の特徴、幼児との関わり方について理解する。
 - ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
 - ・よりよい生活の実現に向けて、幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

■ 題材の指導計画（7時間）

第1時

- ・幼児との関わり方についての学習を行うことを知る。
 - ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定する。

第2・3時

- ・児童との関わり方について課題に沿った解決策を考え、まとめる。

第4時

- ・幼児との触れ合い体験の計画を立てる。

第5時

- ・幼児との触れ合い体験を行う。

第6時

- ・幼児との触れ合い体験を通して、課題解決に向けた一連の活動について、考察したことをまとめます。

第7時

- ・幼児との関わり方について、各自のまとめたレポートを発表し合い、実践を評価したり改善したりする。

→ ■ 本時の概要

めあて：幼児と触れ合うときに、どのような関わり方をしたらよいかを考えよう！

- ・幼児のイメージをたくさん挙げる。



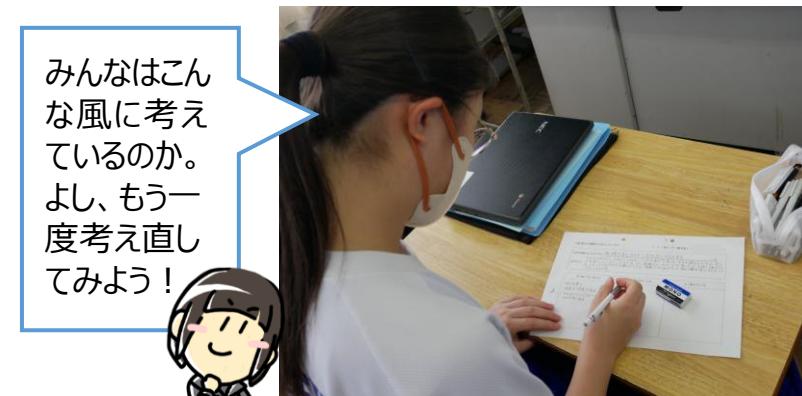
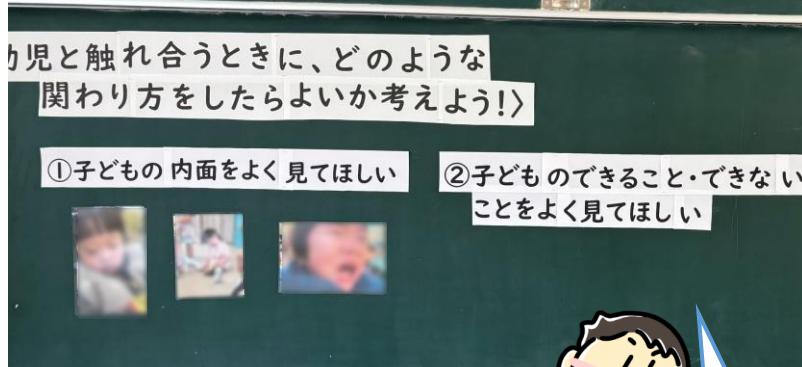
- ・日常生活の中での幼児との関わりなどについて質問した事前アンケートの結果と、今後行う触れ合い体験から、課題を「幼児と触れ合うときにどのような関わり方をしたらよいだろうか」に設定。

- ・幼稚園の先生からの事前アンケート「中学生に幼児とのどのような関わり方をしてほしいか」を参考にして、具体的な課題解決策を考えていく。



- ・思考ツール「KWL法」を用いて、課題を解決するための見通しをもたせる。

■学習調整をしている子供の姿



■指導と評価の工夫

○思考ツール「KWL法」の活用

- *「KWL法」を活用し、課題解決するための見通しをもたせる。
- * W(知りたいこと)を考えさせる際に、どのようにしてその知りたいことを習得するのか考えさせることで、今後の見通しと生徒自身の学習調整につなげることができる。

■評価の実際

この生徒は、「自分自身も清潔に!その子のよいところに注目する!!」という課題を設定した。その結果、K(知っていること)に、何でも口に入れてしまうこと、かぜなどの病気・けがをしやすいと挙げ、W(知りたいこと)に、どんな危険があるか、どんなことだけがをするのかを挙げている。自身の課題に対して解決策を考え、今後の調べ学習につなげることができていることから「十分満足できる(A)」と判断した。

■成果(○)と課題(▲)

- 思考ツール「KWL法」を用いたことで、自分の課題解決に向けた解決方法を可視化することができた。
- ▲W(知りたいこと)を書く際に、具体的に書かなかったことで次の調べ学習でつまずく生徒が出てきてしまった。自分自身の課題解決のためのW(知りたいこと)になるよう声かけをした方がよかつた。